



木曾駒ヶ岳（2）

2014年7月18日～7月19日

Report by 堀

今日の予定コースは、木曾駒ヶ岳から馬の背の尾根を下り、八合目分岐から濃ヶ池～駒ヶ池～宝剣岳山荘へ周回して宝剣岳を往復するというものです。

更に千畳敷からケーブルカーでしらび平へ下山して、バスで駒ヶ根へ戻る途中にある「こまくさの湯」で一風呂浴びていこうというものです。

7月19日(土) 曇時々雨



4時半起床、5時朝食。我々しかいないので、家庭の茶の間のような感じです。



昨夜来、強風と雨音がしていたが、雨は上がり、周辺の山が見える。しかし、これも一時間程度しか持たないだろう。



雨と霧で濡れることが予想されるので、全員初めから雨具を着て 6:05 頂上木曾小屋を出発。
15 分ほどの登りで木曽駒山頂に到着。



山頂には伊那の神社と木曾の神社の二つがある。



駒ヶ岳山頂からは馬の背の尾根筋を下る。
早速、チングルマが出迎えてくれる。



これはハクサンシャクナゲ



薄ピンクの小さい花が集まっているが、何だろう。
(石井さんが調べてくれて、「ミネズオウ」と判明した)



イワウメ



オヤマノエンドウ



ヒメウスユキソウ（コマウスユキソウとも云う）



時折、濃いガスで視界が無くなる。



馬の背はガラガラとした岩尾根が多い。



タカネツメクサ



アオノツガザクラ



イワヒゲ



ナナカマド



雲が上がり南方向に御嶽山が姿を現す。



7:50 八合目の濃ヶ池への分岐で小休止



濃ヶ池への下りで北の方向に南アルプスの山並みが姿を見せる。



登山道脇にミネザクラが咲き残っている。



8:20 濃ヶ池に到着。濃ヶ池は氷河時代の氷河湖だ
という。ごく浅い水たまりです。



濃ヶ池の対岸に回り、



濃ヶ池から先に進む。



せせらぎだが、これが登山道？



小さな雪田や小雪溪を越えていくと、かなり大きな雪溪に行き当たった。



一つ越えるとまた現れる。アイゼンを付けて慎重にステップを刻み乍ら渡る。



雪が解けた後に咲く「サンカヨウ」半透明の花弁が特徴である。



斜度のある雪渓で、転倒したら止まりそうもない。全く踏み跡が無く、つま先や踵でステップを刻むが疲れる。ピッケルが欲しい。



元気な石井さんもさすがにお疲れか。
次の目的地「駒ヶ池」はすぐ近くと思われるが、そこから更に乗越浄土までは無雪でも 40 分掛かる。ここまでアイゼンの必要な雪渓を 4 つ越えてきたが、乗越浄土まであと幾つあるのか分からない。疲労を考えるとこれ以上は危険。ここで引き返すことを決断。



帰りは往きに刻んだ踏み跡があるので、それを辿る。楽しずっと早い。



途中で我々の踏み跡を辿ってきた若い 4 人連れと出会う。

先頭を歩いていた石井さんが、危ないから引き返すように言っている。見れば彼らは登山靴すら履いていない。よくここまで来られたもんだ。引き返そうとして、一人は足がすくんで雪面に腹這いになっている。雪面スパイダーマン状態だね。

石井さんが手助けして、何とか雪渓を脱出。

その後ろから来た中年のご夫婦らしい 2 人連れも引き返す。



八合目まで引き返して、ここでパンなどで食事をする。

対岸の山を振り返るとここまで通ってきたルートの一部が見える。



馬の背を登り返す。



木曾駒山頂手前の分岐まで引き返す。振出しに戻ったようなものだが、もう 13:45 だ。宝剣岳と温泉の両方はたぶん無理だ。

ここからは、往きに通った巻き道ではなく、駒ヶ岳山頂山荘～中岳を越える尾根筋を選ぶ。



宝剣岳は諦め温泉を優先することにして八丁坂を下っていくと雷鳴がする。宝剣に取り付かなくて正解だ。



14:40 千畳敷に帰着したが、ロープウェイは雷でストップしている。

千畳敷 12:00 のロープウェイに乗る予定だったから、既に 2 時間 40 分遅れだ。



先着した石井さんがロープウェイの順番札を貰ってくれていたが、150 番台だ。ゴンドラ一台に 60 人、3 台目になる勘定だ。

温泉もダメだな。

ロープウェイが動かないので、帰りの高速バス（17:00）が心配になる。

待つ間に堀は売店で肉まんを調達。

田形さんも購入してパクつく。

15 時 20 分頃によりやくロープウェイが動き出した。

待つこと一時間、15:40 ようやくゴンドラに乗れる。



しらび平で、あまり待たずに駒ヶ根行のバスに乗ることができる。何とか高速バスに間に合いそうだ。

16:35 駒ヶ根バスセンター着。近くの売店で、ビールを購入。（石井さんご馳走さん）

帰りの高速バスは順調に走り、ほぼ定刻の 20:50 西新宿に帰着。

全く予定通りにいかない山行だったが、我々も途中であった人達も事故なく帰ってこられて何よりでした。